



年間第 13 主日 (マタイ 10:37-42)

わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る

(ミサの初めに) 年間第 13 主日を迎えました。今日は 7 月の聖トマスの祝日にいちばん近いので、わたしの霊名も祝ってもらえて感謝しています。そして佐世保から「みことば会」の皆さんがこの日のミサに参加してくれました。懐かしいです。小教区の皆さんのため、今日特別に来ている方々のため、心を込めてこのミサをささげたいと思います。

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。」

(10・37) これはイエスが弟子たちを前にして話している言葉です。イエスが話している言葉は、よく考える必要があります。12 人の弟子たちは、すでに父と母を残して、イエスに従った人たちです。イエスが言っているような説明は必要ない人たちです。

イエスの言葉をうまく説明するためには、ここにいる弟子たちは誰なのかをまず考える必要があります。わたしはこう考えます。ここでイエスの言葉を聞いているのは、マタイ福音書が書かれた時代の人々で、イエスが目の前で語っているその意味は、福音書の中のイエスが、朗読を聞いている人々に生き生きと現れているのです。

福音書の朗読を聞いているのは、ほとんどが男性だったと思います。キリスト者たちは初めはユダヤ人の集會がおこなわれる会堂を利用してははずです。そこに集まるのは、ユダヤ教の習慣に従えば男性ばかりです。女性は、男性が聞いて学んだことを、家に帰ってから聞いて学んでいたのです。この、男性ばかりの集まりが、イエスが語りかけている相手だと思います。

次に、イエスが言っていることですが、これは無理な要求でしょうか。納得できる要求でしょうか。いくつか例を挙げます。わたしが受けたものを比べてみましょう。わたしは父や母から名前をもらいました。神からは洗礼の恵みをもらいました。また、父と母から形をもらいました。父や母の特徴をもらっています。神からは、形はないけれども命をもらいました。

今あげた例で、神が与えてくれたものよりも父や母が与えてくれたものを大切にしたらどうなるでしょうか。神が与えてくれた命よりも、父や母が与えてくれた「形」を大切にします。もし見える形を大切にしても見えない命を大切にしないなら、どんな意味があるのでしょうか。

違う例を考えてみましょう。「わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。」(10・37) 両親は子供に対して、何か計画を考えるといます。2 歳になったらこういうことを体験させたい、3 歳の時はこの計画、保育園の時期にこの計画、大人になるまでの計画を持っていると思います。そして将来は、こんな人になってほしいと考えているでしょう。

神様もわたしのために計画を持っていると思います。そして神さまの計画、神さまが持っている時間割は、両親が考えている計画と少し違

うかかもしれません。そんな時、神さまの計画と父母の計画、曲げることができないのはどちらの計画でしょうか。

父母は、自分たちがこどもに思い描いた計画通りに子供たちが成長しないと、心配したり焦ったり、苛立ったりするかもしれません。その時父母が、「なぜ計画通りに進まないのだろうか」と考えるのは、本当に正しいことでしょうか。

ところで神さまの計画は、予定が狂ったり、思い通りにならなかつたりしているのでしょうか。わたしは、神さまの計画や時間割は、すべて神さまの望み通りに進んでいくと信じています。神さまはご自分が人間に立てた計画を、心配したり焦ったり苛立ったりはしないと思います。

そこで考えてほしいのですが、「わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。」子供の成長を見守る両親は、神さまがこどもに持っている計画よりも、自分たちが子供に思い描いている計画を愛するのは、ふさわしくないと思います。わたしたち両親も、神さまも子供を愛しています。子供を愛することは素晴らしいのですが、子供にかけた両親の計画を愛するようになると、神さまの望みに合わなくなるのではないのでしょうか。

わたしたちは子供を見守る時、わたしたちの計画通りに育てていることを喜ぶのではなくて、神さまの望みに答える子供に成長していることを喜ぶ人になっていきたいと思います。

田平教会の主任司祭としては、いろいろ投げかけたことを自分に当てはめ、このように実行したら主任司祭が喜ぶのではないだろうか。そのように考え行動する信徒に育ててほしいといつも願っています。けれども、それは中田神父の思い描く理想ですから、神さまの望みは少し違うところにあるかもしれません。だから、「どうしてわたしの投げかけを、右から左に受け流すのだろうか」と苛立ってはいけない」今はそう思っています。

イエスは時代を超えて、いつもわたしたちに語りかけています。今は聖書を通してイエスは語りかけます。イエスの声を聞こうとする人はみな、イエスの弟子です。それぞれの生活の中で、「わたしの思いよりも、神の思いが実現しますように」こんな考えを基本にして、生活してほしいと思います。